

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



### 合田 直弘

このコラムでも過去何度か触れてきたが、英國では来年春の3歳クラシックレー スの馬券が、施行まで半年以上ある今、既に買うことが出来る。ブックメーカー各社が「アンティポストベット」という名稱で売り出している、来年の英國千ギニーと英國オーファスへ向けた前売りで、いずれも1番人気の座にあるマインデイング(牝2、父ガリレオ)が、今回のこのコラムの主役である。

ロイヤルアスコットのG1「ロネーションS(芝8F)」やレバーズタウンのG1「愛メイトロンS(芝8F)」を制したリリーランギングの2番仔として生まれたマインデイング。1つ年上の全妹キストバイエンジエルスは、今春のG3「デリンズタウンスタッド千ギニートライアル(芝8F)」の勝ち馬である。

クールモアの所有馬としてエイダン・オブライエン厩舎に入厩した同馬は、7月25日にレバーズタウンで行われたメイドン(芝6F)を制しデビュートライアル戦にして初白星を挙げると、次走はカラーデビュータントS(芝7F)に挑戦。同じオブライエン厩舎所属馬で、愛千ギニーなど3つのG1を制したミステイフオーミーの全妹という良血の期待馬バリードイル(牝2、父ガリレオ)に2馬身遅れをとる2着に健闘している。

マインデイングは続いて、9月14日にカラで行われたG1モイグレアスタッドS

(芝7F)に参戦。ここもバリードイルとの対戦となつたが、今度は同馬を3/4馬身差で優勝し、早くもG1タイトルを手に入れることとなる。

そのバリードイルが次走、10月4日にロンドンシャンで行われたG1「マルセルブーサック賞(芝1600m)」を快勝し、「オブライエン厩舎の牡馬2トップは強い」との評価が固まりつつあつた中で迎えたのが、マインデイングの今季最終戦となつたG1「ロイヤルアスコット(芝8F)」だつた。ユーマーケットにおける「ユーチャー・チャンピオン

ズ・フェスティヴァル初日(10月9日)のメイドン競走に組まれた同競走は、英國調教の2歳牝馬にとって「クラシックへの登竜門」と位置付けられているレースである。

ファンはマインデイングをオッズ2.25倍の1番人気に支持。ソールズバリーメイドン(芝6F2125m)とニヨーバリーの条件戦(芝7F)を連勝していたナスラが(牝2、父イフラー)が、オッズ5倍の2番人気に推された。

前半は中団に位置したマインデイングに対し、これを目の前に見るポジションをとつたのがナスラだつた。

一方、現段階でマインデイングとバリードイルの能力は甲乙つけがたいと見ているのが、ラドブロードイルだ。同社は、千ギニーの前売りで2頭をオッズ5倍で横並びだから、マインデイングは距離が伸びても、マインデイングを5倍の1番人気に支持。2番人気バリードイルのオッズは11倍だから、マインデイングは距離が伸びて更に良くなるというが、コーラルの見方も、マインデイングは距離が伸びて

頭抜けた本命に推されることになった。コーラルはオーファスへ向けた前売りでオッズが7倍だから、マインデイングは11倍だから、マインデイングは距離が伸びても、マインデイングを5倍の1番人気に支持。2番人気バリードイルのオッズは11倍だから、マインデイングは距離が伸びて更に良くなるというが、コーラルの見方も、マインデイングは距離が伸びて

頭抜けた本命に推されることになった。  
この結果を受け大手ブックメーカーの「強い」と漏らした、強烈なパフォーマンスで、周囲の競馬関係者が異口同音に「強い」と評している。

4. 1/2馬身差を付ける完勝でG1・2連勝を果たした。

筆者もそのレース振りを現場で目撃し、馬券を購入する際は、マインデイングが、英國の競馬関係者が異口同音に「強い」と評している。

前半は中団に位置したマインデイングのゴーサインが出たのが3F標識を過ぎた辺りで、一気に加速した同馬が残り2Fで先頭へ。ナスラも必死に喰らいついてきたが、最後までマインデイングが、ナスラに

すなわち、マインデイング派のファンは現段階ならラドブルークスで、バリードイル派のファンは現段階ならコーラルで単勝を買えばよいわけで、馬券を買う業者を選べるというのも、ブックメーカーで馬券を楽しむ醍醐味の一つとなつてゐる。